

# 経営継承で農業をつなぐ

(株)原田農園 — 横塚町 —

農業の後継者不足が深刻化する中、経営継承の手段として農地を移譲する「第三者継承」が注目されています。原田農園は約20年にわたり農地を引き受け、地域農業を守り続けています。



商売繁盛を見守る店のシンボル「大黒様」とともに笑顔でお出迎える原田さん(中央) 妻・美千代さん(左)、次男・俊祐さん(右)

年間通して旬の果物が楽しみ、大規模に観光業を展開している原田農園。一方で、原田良美さん(代表取締役社長)は、市内果樹園を中心に第三者継承により、地域農業をつないできました。

「約10軒」引き受けた農地からは、約150畝を管理。農地は全部または一部とさまざまで、必要な時期に限り農地に人員を配置するなど、相手方の希望に応じた形で引き受けています。果樹の管理は1年休むと病気が発生するなど問題が生じるため、管理の空白期間がないように進めることを第一に考えます。また、前の管理者が培ってきた技術やノウハウなどに基づいた経営を続けられるように心掛けています。

移譲者の多くは長年、同園が指導を受けてきた農業の先輩などが多いといえます。印象に残っているのは、6年前に引き受けた市内の果樹園。長い付き合いから信頼関係があり、前の管理者が栽培に掛ける情熱をよく知っていました。仕入れ先の業者や火起こしに使うまぎの置き方など細かなことにも配慮し、相手の意向を尊重して管理します。引き受けに併せて、従業員を同園の社員として受け入れ、責任者として果樹園の管理を担っています。次男・俊祐さんは「後継者不足は耕作放棄地にもつながる。皆さんから引き受けた農地を生かし、喜ばれることがうれ

【写真上】前農地管理者を訪れて近況を話す原田さん(左) 【写真下】原田農園を支える親戚一同(母・ちよさんの葬儀にて)



しい」と語ります。

同園の開業は1952年。もともと米や養蚕を生業にしていたが、良美さんがリンゴ栽培を始め、さまざまな果樹を楽しめる観光農園に拡大してきました。良美さんは13人兄弟の末っ子。地域には親戚が多く、日々応援やサポートを受けています。良美さんは「ここまで大きく展開できたのは、親戚や先輩などの支えのおかげ」と感謝し、「管理を任せてくれた農家の皆さんから、今でも助言を受けることはありがたい」と話します。

フルーツ狩りの体験にも力を入れ、ピクニックセットを貸し出し、リンゴ狩りを楽しんでもらえるように市が企画する「沼田ピクニック」にも加盟しています。